

2026年度 桜蔭会京都支部 公開講演会・パネル展示

古代ギリシアの植物学者に魅せられて

— 『植物誌』 個人新訳完結・テオプラストスとともに歩んだ50年 —

テオプラストスは、僚友アリストテレスがつけたあだ名で「神 [テオス]のごとく語る人」という意味です。リュケイオン (学園) で人気を博した彼の講義は、9巻の「植物誌」として伝えられました。

彼は地中海からインドに及ぶ地域の約500種の植物について、ミクロな視点で驚くほど正確な観察を記録し、形態によって分類し、科学的に考察したので、植物学の祖と呼ばれます。植物の生育への環境の影響を考慮するマクロな視点も持ち合わせた彼は、生態学の祖とも呼ばれます。なお、「植物誌」は有用植物の研究でもありました。十分に研究した植物の特徴に適した栽培法や利用法を説いているのです。

古典ギリシア語で書かれた原著を個人完訳し、「植物誌」の魅力を現代に蘇らせた研究者が、訳書について、また自身がテオプラストスと真摯に向き合った50年間について、ギリシアの植物の絵や映像を紹介しながら語ります。

2026年

6月20日(土)

10:30~12:00

会場10:00より受付

挿絵原画(複製)と解説をパネル展示いたします
16時までご自由にご覧ください

講師：小川 洋子

1966年お茶の水女子大学文教育学部史学科卒。1974年東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。お茶の水女子大学・東海大学・日本大学・金蘭千里大学などで非常勤講師。専攻は古代ギリシア史。

主な訳書：

テオプラストス『植物誌』1・2・3巻(京都大学学術出版会、2008、2015年、2025年。2025年度日本翻訳家協会賞「翻訳特別賞」受賞)

☆植物学・林学・農学・本草学も学び、国内外に植物を訪ね、自らも植物を育てるなどして、現代人が理解できるように詳細な註・解説をつけた業績が評価されました。

同書の口絵・挿絵はすべて訳者によって描かれたものです。

フィンレイ編著『西洋古代の奴隷制』(共訳、東京大学出版会)

ストライズグス『ギリシア』(国土社)他

開催方法：会場 および WEB (Zoom配信)

会場：京都府立京都学・歴史館 小ホール (定員100名 先着順)

京都市営地下鉄【烏丸線】北山駅 1、3番出口より南へ徒歩約4分

参加費：無料 (どなた様でもご参加いただけますが、講演会は事前の申込みが必要です)

お問合せ：ouinkaikyoto@gmail.com

お申込み：右のQRコードよりお申込みください

締切 6月1日(月)



主催 桜蔭会 京都支部